

放送コンテンツの研究開発とビジネス面の課題

放送コンテンツの現状

- 多チャンネル24時間放送
 - 地上デジタル放送(大都市圏では7ch + α)
 - 衛星デジタル放送(BS 12ch + α 、CS 200ch以上)
 - ケーブル、IPTV、インターネット
- コンテンツ構成
 - 映像、音声
 - 字幕(クローズドキャプション)、EPG(電子番組ガイド)、データ放送
 - ウェブ・コンテンツ(静止画、テキストほか)
 - 台本、テキストブック、スーパー素材、CGデータ、メタデータなど
- コンテンツの保存(NHKアーカイブス)
 - 約60万本のビデオテープを管理、毎年、約3万本増
 - 放送済み番組(+素材映像)

放送コンテンツの研究開発とビジネス面の課題

放送コンテンツの活用

- 再放送
- DVD
- NHKオンデマンド(インターネット配信)
- NHKアーカイブスでの視聴(約5000本)
- 他番組制作のための素材活用
- 外部へのコンテンツ提供(番組、素材)
- 多メディア展開
 - 3-Screens(テレビ、ネット、モバイル)、パッケージメディア、出版
 - 放送使用／未使用の映像・音声、静止画
 - ビデオクリップ(NHKデジタル教材、そうぞうライブラリなど)
 - 関連情報(取材メモなど)

放送コンテンツの研究開発とビジネス面の課題

新放送サービス

- TV Anytime
 - サーバー型放送
 - メタデータ制御によるダイジェスト視聴など
- AdapTV
 - 素材とメタデータを送り、受信機側で再生
 - ユーザ環境(機器、状況)に合わせた提示、パーソナル化
- TV4U
 - 非プロが映像コンテンツを簡易に制作し公開
 - TVML(スクリプト、プレーヤ)、素材、演出を提供
 - 教育マルチメディア
- CurioView
 - 検索技術を用いて番組を推薦するテレビ

放送コンテンツの研究開発とビジネス面の課題

放送コンテンツの課題

- 制作
 - 自社制作
 - 外部制作
 - 自社＋外部制作
- 権利・コスト
 - 著作権隣接権（放送、再放送、再送信、有線放送、複製）
 - 他メディア展開のための処理
 - 事後／事前処理
- 活用のためのメタデータ
 - 番組全体
 - セグメントメタデータ

放送コンテンツの研究開発とビジネス面の課題

放送事業者からアカデミアへの貢献

- 研究開発・教育のためのコンテンツ提供
 - 権利処理
 - ファイル形式(符号化、ラッパ)
 - メタデータ(正解データ)
 - MPF(Metadata Production Framework)
 - 仕様:MPEG-7ベースメタデータモデル+ハンドリングAPI
 - サンプルソフト:MetadataEditor
 - <http://www.nhk.or.jp/str1/mpf/>
 - 経済産業省「情報大航海プロジェクト」
 - CurioView

放送コンテンツの研究開発とビジネス面の課題

放送事業者からアカデミアへの期待

- メタデータ付与技術
 - 活用のためのデータ不足
 - 効率的な付与システム
 - コストメリット
 - コンテンツ解析に基づく自動付与技術
 - 各機関の得意な技術をインテグレート(MPF)
- コンテンツ管理技術
 - コンテンツ、メタデータ
 - 保護
 - トレース、素材チェーン
- コンテンツ検索・活用技術
 - 低制作コスト